

令和4年度 第11回 藤沢市市民活動推進委員会 議事録(案)

1 日時

2023年(令和5年)2月8日(水)午後6時~午後7時13分

2 場所

ウェブ開催

3 出席者

(1) 委員 11人

山岡委員長、坂井副委員長、入内島委員、大場委員、関野委員、豊福委員、
新實委員、樋口委員、細沼委員、間山委員、山崎委員

(2) 事務局 6人

平井部長、日原参事、森主幹、一瀬上級主査、緒方専任主査、川島主任

4 議題

(1) 令和5年度の取り組みについて

5 開催概要

開会

(山岡委員長) それでは、ただいまから令和4年度第11回藤沢市市民活動推進委員会を開会いたします。初めに、委員会の成立状況、また、傍聴者の状況などについて、事務局よりお願いいたします。

○事務局より、委員会成立の報告などが行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題(1) 令和5年度の取り組みについて

・令和4年度の取り組み結果について

○事務局及び藤沢市市民活動推進センターの関野センター長より、令和4年度の取り組み

結果について説明が行われた。

(山岡委員長) それでは、今のご説明についてご意見やご質問、確認などございますでしょうか。

では、私からよろしいですか。この資料は、どういう扱いになるんですか。どこかに公表されたりはするんですか。

(事務局) この資料につきましては、特にここの委員会で取り扱った後にどこかで利用するというものではなく、この委員会での資料という形になります。もちろん本委員会は原則公開となる会議ですので、市の情報公開センターで閲覧できる資料になっていくこととなります。

(山岡委員長) そうであればいいかなと思うのです。というのは、取り組み結果のところの書きぶりが「やりました」となっていて、基本的にはやったことが書いてあるのですが、やってどうだったのかというのがやはり気になります。例えば「チームFUJISAWA」の登録が50代が中心だから、大学に依頼したということですが、それで若い人が多少増えたのかとか、そういうことが気になります。全部には書けないと思うんですけど。

例えば最後のオリパラのところは具体的な件数が書いてあって、あっ、こんなふうが増えたんだとか、目標が達成出来たんだと分かるんですけども、やってどうだったのかというのが全体的にわかりにくいということが、気になります。

でも、別にこれは公表するのではなくて、あくまでもここでの資料ということであれば、今、口頭でご報告をいただきましたし、そういうことを入れる手間もあると思うので、このままでいいと思います。今後こういう資料をつくっていく際には、そうしたことも配慮してください。

もし何かあれば。

(事務局) 具体的な数字等は可能な限りお示しをさせていただき、やった結果どうだったかという検証につきましても可能な限り今後加えてまいりたいと考えております。来年度からは、この帳票ではなく、中間見直し版の計画に基づいた進行管理シートを新たにご用意したいと考えておりますので、委員会として、また市民の方が見やすい資料として、工夫をしてまいりたいと考えております。

(山岡委員長) ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

(細沼委員) 資料1-3の取組名②「(地域人材) コーディネーター・ファシリテーターの育成」のところに「学生の地域課題解決にむけたSDGsの実践」というのがありますが、実は昨日、第3期のふじさわSDGs共創パートナーの交付式がありました。私は元旦に西高の高校生と団体を立ち上げたのですが、昨日、SDGs共創パートナーになりました。

市民自治推進課のほうでも取り組まれているのかもしれないですけども、学生さんのSDGs等々の申請から実践までというのはやっぱりなかなか厳しいのかなというのは、実際、登録して感じた部分があります。ただ、高校生と地域で活動しているので、これから事前に彼らと話をしながら、自分たちでできるSDGsをみんなで考えていき、地域の子どもたちの意見も入れていく。昨日交付されたのは、学生初ということでした。昨日からホームページにも上がっていますので、それを見て、ほかの高校生とか大学生が、自分たちもやってみたいなとか、できるんだなというのが分かるのではないかな。昨日は3人で行ってまいりましたが、本当にいい経験をさせていただきました。

もう1点は、「チーム FUJISAWA」のほうですけども、先日、湘南大庭市民センターで、スマホ相談室が開かれました。多分、市民自治推進課でやられたと思うのですが、そこに西高のボランティア部の方が何名か入っていらっしやいまして、その場で「チーム FUJISAWA2020」のほうにスマホで皆さん加入していただきました。学校に帰った後に、生徒会長さんに「皆さんに広めてね」ということで、高校生あたりですと、その場で言えば、すぐスマホで登録していただけるのかなというのはあるので、学校ごとに広まっていけば、また増えていくんじゃないかなと感じました。

(山岡委員長) ありがとうございます。実際にこの事業の中で活動されているということですね。

(細沼委員) 昨日は実はこれ（「ふじさわSDGs共創パートナー登録証」）をいただきました。ホームページを見てください。

(山岡委員長) 今のような情報提供でも構いませんので、ほかにいかがでしょうか。

(関野委員) すみません、報告者側なんですけど、今の細沼委員のことに便乗じゃないんですけども、うちが指定管理者のほうの団体としてなのか、施設のほうなのかというのが、今年度SDGs関連の動きが曖昧になっていまして、実はうちのほうでも「きになるどうなる!?地球会議」というイベントを若者のみで方法を話し合っていたく形で実施しました。

今はアイデアレベルで、まだ計画書のほうにも反映していないんですけども、若者自身が考える機会というのを来年度やるかどうかを検討している段階なので、もしかしたら、細沼委員の関わっている団体にもお声かけさせていただくかもしれません。その際はよろしく願いいたします。

(山岡委員長) ぜひ連携をとって進めてください。よろしく申し上げます。

ほかにいかがでしょうか。——よろしいですかね。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題（１）令和５年度の取り組みについて

・令和５年度の取り組みの方向性について

・令和５年度藤沢市市民活動支援施設の事業計画書（案）について

○事務局及び藤沢市市民活動推進センターの関野センター長より、令和５年度の取り組みの方向性について、及び令和５年度藤沢市市民活動支援施設の事業計画書（案）について説明が行われた。

(山岡委員長) それでは、ただいまのご説明について、ご意見やご質問等、いかがでしょうか。

(坂井副委員長) ちょっと細かい話かもしれないんですけども、資料３の支援施設のほうの計画書で伺いたいんですが、１ページ目に重点取り組み目標というところがあります。この中の２段落目、認証数が少し漸減しているということと、新しい仕組みもできているよと。「一方で社会全体の高齢化は団体にもおよび、後継者育成や合併・解散等の団体整理を課題とする団体も増えています」という部分なんですけれども、これは全体の高齢化が進んでいるので、こういう団体も増えているということなのか、関連づけていっちゃうのかどうかということをも、伺いたいと思います。

(関野委員) ちょっと記述的につながりが適切じゃないかもしれないので、書きかえる可能性もございしますが、まずは、「漸減している一方で」で切れるんですけども、労働者協同組合法の施行で言うと、「新たな枠組みが増えました」となっています。基本的には特定非営利活動法人の認証数自体は減っているんですけども、その陰で言うと一般社団法人の非営利型ですとか、こういった労働者協同組合法が施行されているという中で、市民活動支援施設自体の支援対象は必ずしも減っていると判断ができない状況が

あるというのが、上の一文目の区切りです。

その「一方で」というところで、団体さん自体が抱える課題として、「後継者育成や合併・解散等の団体整理」というのが出ていますので、おっしゃるとおり、ちょっと言葉足らずかと思えますので、先ほど事務局のほうからご説明があった修正の範囲の中で、ここの修正を許していただければ、今、口頭で説明したような内容に変えさせていただきます。

(坂井副委員長) 今お話しいただいたとおりののかなと思うんですが、私もこれを読んだ時に、一般社団を選択している団体もかなり私の周りにもあるなというふうに感じましたので、その辺の統計はないのかもしれないんですが、いろんな法人格のあり方があるというところが、こうして目に見えたらおもしろいのかなと思いましたね。感想として。

後段のほう、高齢化のお話と団体の話ですが、ここは直接関係があるのかどうかというのは、なかなか難しいところもあるような気がしました。マクロで捉えればそういう面があるのかもしれないんですが、特定非営利活動促進法というのができて 25 年ぐらいいなるんですね。ということは、年数を重ねている団体が相当多くなってきていると思うんです。そうすると、当初のメンバーがだんだん年を重ねていって、もうこれ以上続けるのはしんどいよねみたいな団体が増えてきている。社会の高齢化というよりも、NPO 法人という仕組みが成熟してきたというか、その過程でそういうことが起こっているのかなというところもちょっと感じるんですね。だとすると、問題は別のところにあって、団体運営の閉鎖性とか開放性とか、要するに新しい仲間を取り入れる形で団体運営がなされてきたのかどうか。当初の仲間だけで固まらずずっとやってきたんじゃないんですかというところも結構あると思っているんですね。

NPO 法人は、つくるも、解散するも自由ですから、それはその人たちの考え方で、仲間ですっとやってきて、もうほぼやったよね、頑張ったからここでやめようかというのも自由だと思うんです。でも、本当は団体としてこの活動をもっと続けていきたいんだよね、だけど、後ろをやってくれる人がいないから、しょうがないかなみたいな感じだと、それは結構大きな課題ですよ。だから、後者のような団体が存続できるように、少し目配りをするというのも一つあってもいいのかなと思ったんです。ここに課題として挙げるのであればね。

今までの調査項目に入っているかどうかわからないんですけども、10 年後の団体とか、その展望を見た時の体制的な課題というのを認識しているのか、新しい人を取り

入れながらやってきているのかどうか。そこを少し団体のほうに意識させるような、その時になってからではちょっと遅いので、そういうことを取り入れたらどうかとちょっと感じました。

下のほうに1と2と、2つ重点項目があるんですけども、今のような話というのはここに入るのか、入らないのか、ちょっと微妙かなど。つまり、発信力を高めても、私たちは仲間を求めているんですということが相手に伝わらなければ、やっぱり入ってこないと思いますし、それから、「役割や責任を意識した運営支援」というので団体自体の持続性というんでしょうか、そういったことはちょっと読み取りにくいかなと思いましたので、ご検討の材料としていただければと思います。

(関野委員) 20周年を昨年度行ったんですが、実は団体の世代交代みたいなお話を施設の15周年の段階で行っておりまして、私どもの認識としても、組織の寿命をよく30年とか言われますが、そういったところの課題というのはもちろん認識しています。ただ、基本的に公益的な活動をしている団体さんに関しては、もちろん大抵の場合、設立された方が一番エネルギーがあることは往々にして大きいんですけども、地域の課題と対応されている方たちなので、その辺のエネルギーが薄れてきたところに関する支援で、元の方がいなくなったからとかじゃなくて、団体として続けてほしいよねという視点で行っていくべきとは思っております。

今年度の重点というところで省いただけで、認識としてはあるんですが、具体的な施策に入れるのを検討してほしいというご意見として受け止めたほうがよろしいですかね。

(坂井副委員長) そこはちょっと微妙なんですね。ここの部分が1と2の2つの項目の上に、「こうした状況を踏まえ」というふうに書いてあったので、こうした状況の中にそれがありませんでしたので、それは受けているのかなと思ったんです。最低限一番上の「気づき」の中に、そういったことも気づかせるということは必要だろうなと思います。

(関野委員) ご指摘の部分にそういった要素も加えると、私がお話しした内容に組織の持続性というお話がつながってきますので、この辺の書き方についても追加させていただきます。

(坂井副委員長) ご検討、よろしく申し上げます。

(入内島委員) 私、今年度初めてこの委員会に参画させていただきまして、わからない中、なかなか意見等も言えずに何とか頑張っているんですが、その中で一番関わらせていただいた事業がミライカナエル事業の協働コースだったんです。今年度、当初3団体の申

し込みがあったところが、残念ながら1団体ということで、先だって採択させていただいた。

そのアプローチが正しいかどうかわからないんですけども、市職員の協働マインドの熟成も図っていくということで、そういう活動もされているということですから、行政のほうが例えば行政でできないこと、ほかの団体だったら、協働すればできるよねというアプローチみたいなのが、積極的にできるかどうかわからないんですが、ぜひ来年度は取り組みの方向性として、協働コースの盛り上がりがもう少しあるといいなと思いましたので、意見として発言させていただきました。

(山岡委員長) わかりにくい話ばかりで、なかなかご発言しにくいところがあったと思うんですが、ぜひお立場からお感じになったこととか、皆さんどんどんおっしゃっていただけるといいなと思っています。

今の協働コースについて、事務局のほうから何かありますでしょうか。

(事務局) 市民自治推進課としましては、ミライカナエル活動サポート事業、特に協働コースにつきましては、この事業の庁内周知も含めて、各部総務課が出席する会議等でも、この事業が今年度スタートしますという形で、毎年、情報提供等を行ってきているところでございます。

それに加えて、今年度は協働に関する研修も市職員に対してやらせていただきました。また、その他の協働という視点で申しますと、企画政策課では、共創・協働という視点のもと、SDGsの推進のほか、庁内各課でいろんな外部と連携した取り組みや、協働して行った事業を一括で情報集約し、その取り組み事例等の情報発信を始めております。そういったものを通して、庁内各課が、協働のヒントにしながらか、民間企業だったり、市民活動団体だったりとつながって、発展的な事業になっていくといいかなと思っていますし、私どもとしてはそれに当たって、ぜひこのミライカナエルの協働コースも積極的に使っていただきたいと考えております。

引き続き、そういった活用のヒントもセットにしてお伝えしながら、申請団体の拡充を進めてまいりたいという形で考えております。

(山岡委員長) ちょっと今と関連して。先ほどの報告にもあったんですが、研修されたじゃないですか。その時の雰囲気や反応などは、どうだったのか。もし何かお話しできることがあれば教えていただけますか。

(事務局) すみません、私がお場に同席しなかったものですから。雰囲氣的にはという

ところで、聞き及んでいる範囲内ではございますけれども、今年初めて職員課の研修担当と連携しまして、コーディネーター的な外部の講師を招いて開催させていただきました。受講職員の人数としては、当日、若干お休みがあったみたいですが、おおむね 15 人前後の職員が選択して、この研修に参加したという形です。

内容としては、協働を実施した NPO 法人の方々のご担当の団体も直接来て、協働相手となった藤沢市の消防の部局も一緒に来て、実体験等も交えながらお話しされたと聞いております。参加者は、約 15 人前後ではあったんですけども、子ども青少年部をはじめ、いろんな部局の職員がこの研修に参加して、「すごく具体的なイメージもつきやすくなった」「大変勉強になって、何かちょっとヒントになるような気がします」みたいな感想をお寄せいただいたと聞き及んでおります。

(豊福委員) 感想なんですけれども、市民活動に参加することの妨げになるのが、活動内容がわからないとか、参加の機会が少ない。前も同じようなことを申し上げましたが、その中で多様な情報発信を推進していくことは本当に大事なことなんだと思います。

基本指針 1 に書かれている関係者だけではなくて、広く市民に対して市民活動に対する情報を発信していく。一般的な市民の方々にも、こういうことが行われているということを広く発信していくことが全体を盛り上げていくことになるし、活動されている方の励みになるとか、そういう部分のエネルギーになるというように思っています。

そんな中で藤沢市は、「チーム FUJISAWA 2020」というとてもすてきなプラットフォームをお持ちなんだと思います。先ほどの報告の中にもありましたけれども、計画値を上回るとか、あるいは具体的な活動内容として、学生さんと年齢の高い方々が触れ合う機会があるとか、とてもいい内容が動き出しているんだと感じました。ぜひこうした枠組みを、むしろ藤沢市の強みにして育てていく。こういう内容を広く市民の方々に広報していく。「プッシュ型の広報」という言葉があるのかどうかわかりませんが、いろいろなメディアを通じながら、市民全体に広げていくことはとても有効ではないかなという思いがしました。

感想で申し上げさせてもらいました。

(山岡委員長) 今のご意見に対して、事務局から何かありませんか。

(事務局) まず、「市民活動に関する多様な情報発信の推進」ということで、もちろん今まで市の広報ですとか、推進センターのほうで登録団体等に情報提供してきた経過はあることはあるんですけども、昨年度行わせていただいたアンケート調査の結果からす

ると、やはり関係者以外の方々、市民お一人お一人に情報が届きにくい状況があるというのは受け止めたところでございます。来年度につきましては、例えばどういった SNS を使用するのか、また、どんなタイミングで、どういった機会を捉えて、どういう対象者に情報を発信していくのか。そういった部分を意識しながら情報発信を頑張っ
てまいりたいと考えております。

加えまして、その一つのツールになると思っ
ているんですけども、「チーム FUJISAWA 2020」が、今まで市民活動だったり、ボランティアとかに参画されてい
なかつた方々、あるいは気軽さみたいな部分で、高校生とか大学生の方にも、やってみよ
うかなという形でご参画いただいております。

こういった新しいプラットフォームを活用し、市民の方々に種をまいて、芽が出始めて
おりますので、これらの取り組みがしっかりと幹となって、いろんな枝葉につながって、
市民活動団体の盛り上りにつながったり、参加して意外とおもしろかったよという市民
の方々が増えていくことが、藤沢市全体の市民活動であったり、社会貢献と言うと大き
過ぎるかもしれないんですけども、そういった意識の醸成につながっていけばと考
えておりますので、引き続き、取り組んでまいりたいと思っております。ありがとうございます。

(山岡委員長) なかなか難しい課題ではありますよね。関心のない人は、どんな発信をし
たって関心がないから届きません。この委員会の中にも市民活動を外からの目で見
ている方もおられますから、ぜひそういうお立場からも知恵を出していただき、
広く市民に対してという発信の部分の側面的に支えられるといいかなと思います。

ほかいかがでしょうか。――よろしいですか。

よろしければ、以上で議題（1）を終了いたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

議題（2）その他

○事務局より、その他について説明が行われた。

(事務局) 最後に、本日冒頭でご提案、ご了承いただきましたとおり、本日が今年度最後
の委員会となりますので、ここで市民自治部長の平井より、一言ご挨拶をさせていただきます
のでよろしくお願いいたします。

(平井市民自治部長) 皆様、こんばんは。部長の平井です。

本日が今年度最後という形になりましたので、一言ご挨拶をさせていただきます。

今年度は特に回数が多く、内容的にはミライカナエル活動サポート事業の審査選考、市民活動計画の中間見直しということで、皆様のご尽力によりまして、無事事業を推進することが出来たと思っております。折にふれて本当はもっと皆様と色々な意見交換をしたいなということをお自身常々思っていたところなんです、コロナ禍の中、対面でざっくばらんにお話ができなかったのが非常に残念だなと、つくづく感じているところがございます。いろいろなご意見を聞いておりますと、更にお話ししてもっと色々聞きたいなというところもありますから、今後もそういう機会をうまくつくっていききたいなと思っております。

最後に、私事になりますが、この3月をもちまして定年という形で卒業することになります。来年度は新たな部長のもと、事務局のも更なる進化を遂げて頑張っていただけかなと思っております。引き続き市民活動の推進に向けまして、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

(事務局) 事務局からは以上でございます。ここで間山委員からご発言があります。

(間山委員) 私事ですが、私も異動の辞令を頂戴しまして、今月中には横須賀市の久里浜支店に異動になります。新たな支店長着任が、今月半ばぐらいから引き継ぎをして、今月中にはという段取りになります。

皆様にお世話になりました、なかなかお力になることができず、本当に勉強させていただいた3年間だったと思います。次回はお会いできないかなと思ひまして、改めてご挨拶させていただければと。3年間お世話になりました、ありがとうございました。

(事務局) ありがとうございました。今年度の委員会は本日が最後になりますので、間山委員のご後任の方につきましては、恐らく来年度4月の委員会からご着任いただくという形で、さまざまな手続は今後、間山委員とさせていただければと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

事務局からは以上でございます。

(山岡委員長) 1点だけ確認ですが、委員会の冒頭で意見がある場合はメールでもお寄せくださいとお話がありましたが、いつまでという期日があれば教えてください。

(事務局) 大変失礼いたしました。本日資料としてお示しさせていただきました令和4年

度の取り組みのシートに関する事、あと、令和5年度の取り組みの方向性、推進センターの事業計画、それらにつきましては、この後メール等でご意見をお寄せいただければと思っております。

期日につきましては、今月中にご意見をお寄せいただければ、内容等を検討させていただきます。反映できるものは可能な限り反映してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

閉会

(山岡委員長) それでは、以上で本日の日程が全て終了しました。

今年度最後ということで、皆様お疲れさまでした。ありがとうございました。

以上をもちまして令和4年度第11回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。

午後7時13分 閉会